

「桜と電車」

この絵は昨年4月初旬、横浜・渋谷間の鉄道路線の
一駅・都立大学駅付近の高架下緑道での風景です。昔
の水路を暗渠化し、上を人が通る道路に、両端や中央
に桜などを植栽して空間を緑化し、緑道と呼称してい
ます。

地名を都立大学駅と聞いた方は大学が近くにあると
思いますが、実は33年程前迄この地にあった東京都立
大学に因んだ駅名を今も使っているのです。この隣の
駅・学芸大学駅も60年前に移転した東京学芸大学の名
残です。鉄道会社は駅名変更も考えましたが、地元
の名称への愛着から改称されず今に至っています。

桜は菊とともに日本を象徴するものされています。
時代を遡ると奈良時代には中国文化の影響もあり花見
の対象は梅や桃で、歌に詠まれた花は「梅の花」が多
数を占めていました。この梅の花が平安時代の初期頃
以降、花の代表を桜に譲ることになり、「花」といえ
ば桜と、今日まで続いています。

余談ですが童謡の「さくらさくら」は、幕末頃子供
向きに箏の手ほどき曲として江戸で作られ、明治以降
に歌詞が付けられ広まったと言われています。桜の優
美な情景を思い浮かべてきました。一方エドヒガン
とオオシマザクラの雑種「ソメイヨシノ」は丈夫で入
手しやすいことから広く植えられ、花は「桜」が代表
すると認識されるのに一役買ったことでしょう。

桜を画材に選んで思うことがあります。桜は近景で
花一輪ずつか、遠景のマスで表現するかのいずれかだ
など。この絵のような中景の表現にはやはり悲観苦悶
でした。多くの桜人を楽しませる桜が表現出来てけれ
ば良いのですが。



菊岡 保人

Size : 530×455mm (F10)

